

私は、今年の4月16日をもって、長年お世話になった民主党を離党（除籍）いたしました。

現在は、無所属の議員として活動しております。

以下は離党に至った経緯と理由であります。

また、離党に際し、大変にお騒がせし、多くの方々にご心配、ご迷惑をおかけしましたことにつきましては、心よりお詫び申し上げます。

是非とも、今回の私の決断にご理解を賜り、引き続きのご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

平成25年5月吉日

参議院議員 平野達男

民主党離党の経緯とお詫び

私は、12年前に、この国、そして我が郷土岩手のために、私にとってできることは何か？ そう自問自答し、自由党から参議院選挙に出馬しました。

小泉旋風が日本中に吹き荒れる中、県民の方々から最後まで、熱い・真剣なご支援をいただき当選させていただきました。

岩手をよくする、そして、この国をよくする。

この一念を持ち続け、国政の場で一所懸命の活動をしてまいりました。

時間があれば現場を歩き、国会では、先頭に立って論戦を挑みました。

2003年9月26日、自由党は民主党に合併します。強力な野党となって、自公長期政権を倒し、政権交代によってよりよい国へと変えていく、そのための大同団結でした。だからこそ「小異」は、乗り越えることができました。

6年後の2009年8月30日の衆議院選挙。マニフェスト選挙とも呼ばれたこの選挙で、民主党は308議席を獲得し、悲願の政権交代が実現しました。

（この間の経緯、事情については、拙著「復興の最前線に立つ」を参照されたい。）

2012年12月16日の解散総選挙で、民主党は敗北、57まで議席が激

減してしまいます。

この歴史的敗北により、民主党政権が短命に終わった原因は、いくつか指摘されています。しかし、最大の原因の一つは、与党としての党運営の稚拙さにあったと私は考えています。

政策をまとめ、前に進める。言うまでもなく、政権・与党の最も大事な役割です。そのために、政策をめぐる党内で激しい論戦が交わされることは、望ましいことです。

しかし、国の制度の根幹にかかわる重要課題であって、賛否が分かれる課題では、議論が白熱化する一方で、妥協を全く許さず最後まで党としてまとめようとする姿勢が出てきませんでした。長時間にわたる議論の末、膠着状態になっても、党が選んだ代表、総理の考えを尊重するというつもりもありませんでした。

一方で、消費税など重要課題を内閣のトップが唐突と受け取られかねない形で提起したことなどを受け、党代表や幹部、総理の資質を問う声もあがりました。

私も、財政や税に関し、党内の調整、融和に奔走をしました。

しかし、顕在化した「小異」が、「大異」へと溝がどんどんひろがるばかりでした。

社会保障と税の一体改革をめぐるっては、政権与党でありながら分裂という高い代償を払うことになりました。また、その後も離党者が後を断ちませんでした。野党である自民党、公明党がそろって賛成した三党合意がなされる中、推進役であるはずの与党民主党がまとまらないどころか、分裂をするということは極めて異例のことだと思えます。

こうした状況では、政府と党の一体感を、国民は感じることはできなかったのだと思います。

党としての統治能力、ひいては政府の統治能力についての国民からの信頼性が大きく損なわれることにつながっていきました。政策以前の政権運営の根本的な問題だと思えます。

もちろん、与党の一員として、閣僚として、こうした状況を変えることができなかつた責任は痛感せねばなりません。

昨年末の衆議院選挙の国民の審判は、民主党へのレッドカードでした。

年末年始、党の再生について、私なりに考えました。また、年明け早々から

県内を歩き、さまざまな場所で、いろいろな方々から、厳しい意見をいただきました。

「民主党の役割は終わったのではないか」との指摘までいただきました。

私は、県内をあるきながら、原点にもどろうと決めていました。

すなわち、岩手のため、国のため、私は何をすべきか。

民主党にとどまり、党の改革を通じて、岩手、国をよくするのか、それとも、党の外に出るのか。

憲法問題を含め、国の根幹にかかわる重要課題を、党が結束して対応していくにはどうすればいいか。様々な背景を背負った議員の集合体が党であるとするれば、民主党でそれができるのか。

しかし、私には、このことを考える気持ちも、党内での議論に参加する気力も失せていました。

「平野たつおをお願いします。」

私のお願いの挨拶からは、“民主党”は、消えていました。

岩手県内をまわり、皆様方からのご叱責をうけ、思いは確信に変わりました。

私の愛してやまない岩手のために、全身全霊を捧げること。

そのためにも党を離れることを。

しかし、離党をめぐっては、これまで支援していただいた多くの方々、民主党とともに歩んできた仲間の皆さんに、事前に説明することもなく、唐突に離党表明をしました。さらに、仲間や同僚議員の諫言にも耳を貸さず、突っ走ってしまいました。

このため、大変なお騒がせし、多くの方々に、ご心配や、大変なご迷惑をおかけすることになったことにつきましては、ただただ、お詫びを申し上げなければなりません。

本当に申し訳ありませんでした。

一時は、今回の選挙の出馬を見合わせることでかながえました。

しかし、東日本大震災からの復興は待たなしです。農林水産業、農山漁村をめぐって大きな難問が降りかかろうとしています。中小企業の振興、お年寄りの方々が安心して住める町づくり、社会福祉の充実など、私が、岩手のためにやらなければならないことは、まだまだ山ほどあります。

今、参議院議員として三期目への挑戦に、決意を新たにしております。